

## 質 疑 応 答 書

業務名：広島城天守の木造復元に向けた基礎地盤及び石垣に関する調査・検討支援業務

質 問	回 答
<p>1. 広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書（令和8年3月）P.89～99「第4 今後の課題及び必要となる調査等」によれば、土質調査のうちボーリングは計11ヶ所、別孔ボーリング1ヶ所、現場密度試験4ヶ所、平板載荷試験の内容となっていますが、令和8年度、令和9年度、令和10年度に予定されているそれぞれの調査内容と数量および工期をお示しください。</p>	<p>広島城天守の復元等に関する技術的課題に係る調査・検討報告書（令和8年3月）は、令和5年度から令和7年度にかけて行った、現天守の解体及び天守群の復元等において想定される様々な技術的課題等に関する基礎的な調査・検討の結果をまとめたものです。</p> <p>基本仕様書P.1「5 業務内容 (1)、(2)」に記載のとおり、本業務では、これまでの調査・検討結果を踏まえ、天守群の復元等における天守台及び小天守台の安定性並びに現天守の解体及び天守群の復元等に伴う文化財への影響を評価するために必要な検討事項の整理を行うとともに、検討に当たって必要となる調査について、内容、方法、範囲（実施箇所）及び所要期間（スケジュール）等の検討を行うこととしています。</p>
<p>2. 平板載荷試験の目的、位置、数量、試験深度、設計荷重度をお示しください。</p>	<p>質問1に対する回答のとおりです。</p>
<p>3. 調査時期について、現天守を含む既存建物が現存しているか、あるいは解体されているかの工事のタイミングをお示しください。</p>	<p>現時点において、現天守を含む既存建物を解体する予定はありません。</p>
<p>4. 現天守内部でボーリング調査を行う場合、ボーリング機械の搬入経路は幅1m、高さ2m程度で壁等を開口することになります。また、ボーリング機械の仮設に際して、必要に応じて床や天井を開口することになります。これらの可否と調査終了後の復旧の必要性及び壁や天井の解体に伴う産廃の処分が必要でしょうか。それとも現地の支障の無い場所に残置してもよろしいでしょうか。</p>	<p>基本仕様書P.1「5 業務内容 (2)」に記載のとおり、調査業務の仕様について、本業務の中で検討を行うこととしています。なお、調査の内容によっては、実施に当たり事前の調整が必要となる場合があるため、発注者と十分に協議の上、検討を行う必要があります。</p>

質 問	回 答
5. 常時微動測定は地中2点、地表2点(1秒計、5秒計)の計4点でよろしいでしょうか。	質問1に対する回答のとおりです。
6. ボーリング調査及び現場密度試験(水置換法)で使用する水道水の借用の可否をお示してください。	質問4に対する回答のとおりです。
7. 今回の調査内容に以下の調査が含まれますでしょうか。 ①発掘調査 ②石垣の変状調査(三次元レーザー計測等) ③現天守基礎及びグラウトの現地調査 ④要素試験、架構試験 ⑤風洞試験	質問1に対する回答のとおりです。
8. 今回の調査内容に以下の検討項目は含まれますでしょうか。含まれる場合、条件や数量(断面数等)をお示してください。 ①入力地震波(模擬波)の作成 ②基礎地盤の液状化の検討 ③地震時の基礎地盤の挙動の検討 ④現天守解体、天守群復元時の基礎地盤の挙動(リバウンド、沈下等)の検討 ⑤石垣の地震時の安定性の検討(累積示力線法、DEM解析)	質問1に対する回答のとおりです。

(注)質問は質問内容が明確になるよう、一部記載を整えています。